

経済情勢座談会（２）

田中 修

はじめに

李克強総理は 7 月 15 日、6 名の専門家・学者を招いて経済情勢座談会を開催した。本稿では、李克強総理の総括講話の概要を紹介する。

１．出席者

次の 6 名が参加した。

- ①清華大学中国・世界経済研究センター 李稻葵主任
- ②北京大学国家発展研究院 宋国青教授
- ③国務院発展研究センター対外経済研究部 趙晋平部長
- ④中欧陸家嘴国際金融研究院 劉勝軍執行副院長
- ⑤社会科学院民営経済研究センター 劉迎秋主任
- ⑥中国不動産鑑定士・不動産ブローカー学会 柴強秘書長

２．李克強総理の総括講話

我々の追求する発展は、質・効率が高く、省エネ・環境保護に取り組み、水増しのない発展であり、発展を通じて人民を就業させ、所得を増やさなければならない¹。

方向を定めたコントロールの内容は、冷静さを保ち、一定の成果を挙げ、精確に力を発揮し、施策を統一的に企画することであり、これまでの「区間コントロール」を深化させるものである。方向を定めたコントロールは即ち預金準備率引下げだという人がいるが、これは誤解である。方向を定めたコントロールは、「大量の水を流すことによる灌漑」ではなく、「点滴灌漑」、「湧き水による灌漑」であり、方向を定めて力を出し、カギとなる部分・重点分野・脆弱な地帯をしっかりと捉えてコントロールを進めるということである。

コントロールの 3 大措置は、①行政を簡素化し権限を開放し、②公共財の供給を有効に増やし、③实体经济の支援に力を入れることである。

（１）行政の簡素化・権限の開放

新しい政府は多くの行政審査・許認可事項を取消・下方委譲したが、現在各レベルの政府機能にはなお誤りが存在する。管理すべきでないものの管理が多すぎ、管理すべきものの管理は不十分である。審査・許認可事項が完全に取り消されていないもの、下放委譲が不十分なものがあり、一部の役人には異なる程度に不作為現象が存在し、甚だしきは「決裁の判を押す人間が見当たらない」ことがしばしばある。

政府が一旦不作為となれば、改革は実施に至らない。方向を定めたコントロールの目的

¹ ゴチックは筆者。

は、政府に一面において行政を簡素化し権限を開放させ、一面において開放と管理を結び付けさせて、市場と社会の活力を更に多く奮い立たせることにある。

（２）公共財供給の有効な増加

現在、中国の公共財供給にはなお不足部分があり、とりわけ中西部地域の鉄道・水利・交通等のインフラ、及び衛生・年金保険等の基本サービスがいずれも欠乏している。この方面における投資の潜在力は十分巨大である。

しかし投資資金はどこから来るのか？単に政府に頼るだけではだめである。投融資の体制メカニズムを改革し、社会（民間）資本を十分参入させる必要がある。政府もサービスの購入を通じて公共財の有効な供給を増やすことができる。

（３）実体経済への支援

中国経済の発展は、最終的に実体経済の支えがなければならない。今年に入り、中央政府は一連の措置を採用し、方向を定めた預金準備率引下げ、小型・零細企業への所得税減免範囲の拡大、民営経済・社会資本の参入緩和等の政策を通じて、更に多くの資本を実体経済へと誘導している。

現在のところ、方向を定めたコントロールの 3 方面の措置は、カギとなる部分、重点分野の不足部分を補うだけでなく、経済に対してもテコ入れの役割を果たしている。事実上、これらの措置の本旨は、改革促進・構造調整・民生改善にあるのだ。

中国経済が相当長期間、中高速発展を維持するには、付加価値のチェーンにおいてミドル・ローエンドからミドル・ハイエンドに向けて邁進することを実現しなければならない。中国経済のグレードアップ版を作り上げるためには、イノベーションによる駆動に依拠しなければならない。

中国経済は今日に至った以上、再び速度に依存してはならず、質と効率を高めなければならない。我々は過去長期にわたり低付加価値製品の輸出に依存し、製品を安い価格で売り出してきたが、これで稼いだ金は肉体労働の金にすぎない。今後はイノベーションによる駆動に依拠し、製品の質と技術の含有量を高めなければならない。

イノベーションは科学技術のイノベーションのみならず、体制メカニズムのイノベーションをも含む。中国の体制メカニズムのイノベーションの余地は大きく、体制メカニズムのイノベーションを通じて経済の転換・グレードアップを推進しなければならない。

我々は過去に古い観念をもっている。やるかやらないかは、どれだけの金が支出されるか次第であり、どれだけやるかは、もらった金次第というものである。事実上、金よりもっと重要なのは体制メカニズムのイノベーションなのだ。

知的財産権は企業の資本であるのと同じであり、体制メカニズムのイノベーションの本旨はボーナス効果である。政府の体制メカニズムのイノベーションにはなお巨大な余地があり、イノベーションをうまくやれば、より多くのボーナス効果が発揮できるのである。

（7月22日記）